古川　顯教授近影

古川　顯 教授 記念論文集

献　　辞

古川顕先生は，2005年６月11日に満63歳の誕生日を迎えられ，2006年３月をもって本学を退官されることになりました。

古川先生は，1966年３月京都大学経済学部を卒業後都市銀行に就職され，銀行在職中に京都大学大学院経済学研究科修士課程を修了されました。その後，銀行を退職され，京都大学大学院経済学研究科博士課程に進学されると同時に，神戸学院大学経済学部助手となられ，同大学講師，助教授を経て，大阪大学教養部助教授，同大学教授，さらに，関西学院大学経済学部教授を経て，1994年４月に本学経済学部教授に転任，金融・財政論講座（担当科目：金融論）の教授として現在に至っておられます。

古川先生の研究分野は多岐にわたっていますが，その代表は，何と言っても，日本の銀行行動や金融市場，金融政策などに関する理論的･実証的分析であります。先生は，日本の金融システムの特質を踏まえた金融市場の一般均衡分析，信用割当と銀行行動，日本の貸出市場における不均衡分析の導入，銀行貸出金利の決定メカニズム，窓口指導の有効性，日本銀行の貸出供給ルール，銀行準備需要の分析などに関する数多くの優れた論文を発表されました。それらの研究成果の一部は『現代日本の金融分析』（東洋経済新報社）としてまとめられ，学位論文でもある同書に対しては，1985年４月，第26回エコノミスト賞が授与されました。先生は，同賞受賞後も，金融政策とクレジット・ビュー，銀行の貸し渋り行動，フィナンシャル・アクセラレーター仮説の検証，量的金融緩和政策などに関する理論的・実証的な分析を精力的に行っておられます。

本学へ転任以降，先生は，以上のような金融の分野を中心に研究を続ける一方で，現代的な貨幣･金融論の視点から，近代イギリスの経済学者 R. G.

ホートレイやほぼ同時代のアメリカの経済学者 I. フィッシャーの業績の再検討と体系化を図るなど，近代経済学説史の分野にも研究領域を広げられ，この分野の研究者としても注目を集めておられます。

先生は，経済学部教科委員会委員長として経済学部の抜本的なカリキュラム改革を実行され，また，2001年4月からは2年間にわたって京都大学評議員という重責を担われました。先生は，学生や大学院生の教育にも極めて熱心にとりくみ，社会に多数の優れた卒業生を送り出すとともに，多くの優秀な研究者を育ててこられました。その中には，現在，中国や韓国の大学の教員として活躍している留学生も多数含まれます。このように，古川先生は，経済学部及び経済学研究科の発展に多大な貢献をしてこられました。

京都大学経済学会は，こうした先生の多年にわたるご功労に対する敬意と感謝の気持ちをこめて，『経済論叢』の本号を記念号として編集いたしました。先生とゆかりのある方々から寄せられた論文を編んで，本号を先生にお贈りできますことは，私どものこのうえない慶びとするところであります。

先生が今後ともますますご健康で，学界のため，広く社会のために，ご活躍なさいますことを心から祈念いたします。

2005年8月1日

京都大学大学院経済学研究科長・経済学部長　西　村　周　三